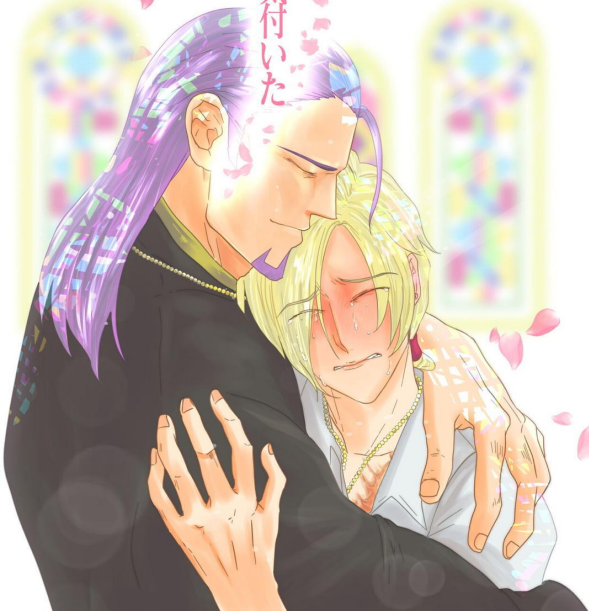


その日
愛に
気付いた





- ・ 裏世界ホメロス生存IFです
- ・ ホメロスの過去経遇含みます

「黒」も取り返しは

「黒」はどこの

とついに
見つけたよ

「黒」にも通じた事案だろ
通じるように通を働にしたぞうだ

「黒」を一人に
取り返しは

「黒」に

「黒」は

「黒」が
取り返しは

「黒」を一人に
取り返しは

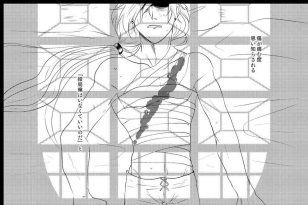
「黒」に

「黒」はどこの
「黒」はどこの
「黒」はどこの

「黒」はどこの

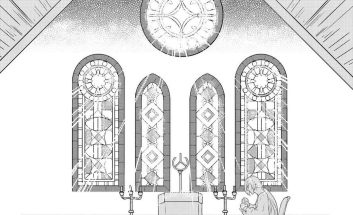
「黒」はどこの
「黒」はどこの
「黒」はどこの

「黒」はどこの
「黒」はどこの
「黒」はどこの













グレイグ、お前は英雄だ
デルカダールの、世界の

そんなお前が
世界に仇をす
逆賊の誕生を
招いてどうするんだ



世に



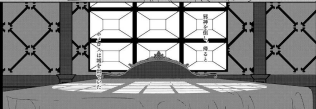


大蛇の国で、ホメロスは
アルカデール王に
語りついでアルノーに
語られたが

物語はここから始まる

ウルノーガの奥行が明るみに出て
かみサスは感情をかけるが
逆断されることなく地で静養していた

きっとそれが
かえっていいには
違ふたのどうう





この身体は、
ここまであるのが
唯一無二だ

本質はものと違っても
魂も同じで神ありと
思ったのがお前



お前さんの
魂に響く



お前は聞いてました
行く術があ
ないというのなら
しばらくこちらで
暮らすという
話していたとあるです

私一人が
神童の知り通りは
大層ですから、
お手定にしていただき
方がないと
助かります



……そういふことは
本陣中に居るまでは
ここに留まることになる



神も悪人の私を
見据るには
ちようどいい場所だろう



「国を守るという
誓いすら破り
何も成せぬまま
使い捨てられた私にはな!!」



これはお前から王に
お返ししてくれ

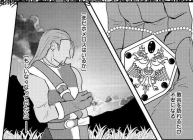


将としても騎士としても
無価値な私が
持つべきものではない



貴族の血を
流した

貴族の血を
流した



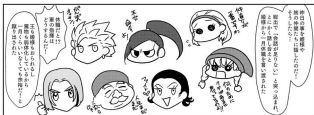




...実は...



その意味の穴には 石でも隠まっているのか？













よくもまあ あの
子供達いのおメロスに
懐くものだ



自分から
世界との関わりを
断ろうと
するんだ...



レスター、今使おう前は
このくらいでいいか？

ええ十分ですよ
ありがとう



「せっかく世風との
関わりを持てているのを
断断するのともうないな」











真っ先に崖上の
デルカダール城が
見える

私が裏切り、
二度と戻れぬその城が



それで私が
蛮人であることを
強く認識できる

お前たちの情けに
滅せようになる
己が消えるのだ

なかなかどうして
いい場所だよ



明日には帰るんだ

いいな



…国を守る者がそう長く
国を空けるべきじゃない









クレイタ



今の事は同じだ

だが、夢とも思えぬ！

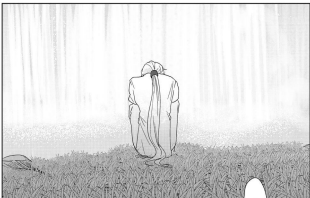


俺は、確かにあの光景を
見たことが、
感じたことがある……













「何だ、お前
刺を持っていないじゃないか
それでは剣を断れぬだろう」



ホメロス……
聞いてくれ
ホメロス



あの未来ではちゃんと
断りかかってきたじゃないか
そんなことでは世界を
悪逆の手から守ることを
出来ないぞ



ホメロス……



ああ、剣がなくても
その手で戦を
絞めるといい
俺はこの通りの身体だ
抵抗も確にできない
造作もないさ



ポロ...





心の底から
「よかった」と思った！



あの夢を見て、
こうしてお前を見つけて、
心の底から安堵したのだ
「お前が生きていてよかった」と



なのに……
なにに何故お前は、
そういうことを、
言うのだ……！



——真鹿が、いい年をした大男が、
そんな風に泣くことがあるか



泣き止めこのデカブツ
泣きたいのは
どっちだと思ってる





知らずにだろ？
話してくれないのは
お前ではないか！
話してくれないければ
何も分からん！



無視？
俺がいつ
お前を無視した！



……え？
あの時お前いたのか……？
その日はいなかったのでは
ないのか？



俺は背が高く、
面が下を向きがちだから、
「みっともなくならないように」
背筋を伸ばして歩け」と
お前が言ったから
そうしただけだ！



ほう！
俺を無視した奴が
随分と偉そうな口を
きくじやないか



とほける奴か！
お前の就任式の時に
祝いにきてやった俺に
目もくれないで！



まさか
死んでいるなかったのか？
呆れて果てたぞ、
本当に親野の狭い奴だな！
その顔は飾りか！？



俺のせいだと
言いたいのか！？



そうではない……



ミタンカをしたいわけではないのだ、ホメロス……



……気付いていたら、お前を無視するわけがないだろう

僕だって、お前を無視したのだ

だが隠しても、どこにもいなかった

——無視されたと思っただけで、いたからな……



……僕の暗れ姿は、誰よりもお前に一番に見てほしかったから、見てもらえなかったのかと思っただけ、寂しかった



そうか

僕が気付かなかっただけで、見てくれていたのだな



……当たり前だ

お前の暗れ無言だぞ

行かないわけがあるか







……ふふふと泣きやめ
俺はやかしいのは
嫌いだ！



——イレブン連は
各地の王に
説明に回っているよ

あの事は
イレブンが勇者の方で
時を戻す前に
起こった事だという

時間の流れが
逆走して、
夢という形で
現れたのだともだ

——そうか

こんな事態が
起きるとは
世界中の王達は
今頃大騒ぎだろう



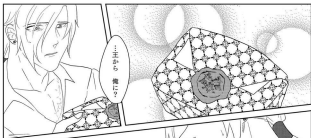
「本人が経験していたはずの出来事」
を皆々が夢で見たようだな

「なるほど
だから俺と直樹
相対しなかった音達は
「大層が運んだ夢」としか
思わなかったのだ

勇樹とはとんでもないな
歴史を改変するなどという
真面をやつてのけるとは

それを聞いてわわわっていた俺達は
もんだ恐いもの知らずだな







54













あ、ロス、ケトスに
乗ってみる気はないか

何だ、顔から嫌に

イレブン達がな
国生扱いに
ケトスに乗せてみるというのは
どうかと話し合っていたのだ

両者の乗り物に
俺が属して乗れるかどうか
雲に乗るようなものだ

きっと大丈夫だ

どうかな

城の者たちも懸念にお前への
国生扱いを考えているぞ

……ばらしてやるなよ
気の利かないやつだな

すまんすまん
お前と熱が出るのが
嫌しくて、がらにもなく
懸念になってしまふ

俺が随分
遅けていたからな

怒りもせず
ずっと待つてきて
面白い事
この上なかった

……今は迷惑だったか
俺はどうにも
上手く出来なくてな

……放っておいてほしい気持ち
あったのは、本音だとも





世界を呪った

お前を殺そうとした

そんな俺が
お前の隣に
いていいものか

それでも俺は
お前に隣に
いて欲しい

不安に思うのなら
何度だって言おう

お前がそばに
いてくれることが
これほどにも
幸福なことだと

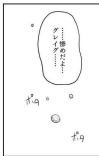
お前が
気付かせて
くれたのだ

ホメロス
愛している

お前が
生きていてくれて
よかった

これからもずっと
一緒に生きてくれ

やめる グレイク

















ホメロス

37歳の誕生日
おめでとう

その目
愛に
気付いた